



畑作等除草剤



芝生・緑地管理の除草剤

ワンサイドP乳剤



除草剤分類

1

農林水産省登録	第20123号
有効成分	フルアジホップP 17.5%
その他化管法該当成分	キシレン（1種）45% エチルベンゼン（1種）28%
性状	褐色澄明可乳化油状液体
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
危険物	第4類第2石油類
有効年限	3年
包装	500ml × 20本

特長

- ✓ イネ科雑草と広葉作物との選択性が明瞭です
メヒシバ、イヌビエ、エノコログサなどの一年生からチガヤ、ヨシ、ススキなどの多年生に至るまで、広範囲なイネ科雑草に対して強力に作用します。
選択性が明瞭であり、豆、いも、野菜等の広葉作物の生育期にはほとんど影響を与えず、イネ科雑草を防除することができます。
- ✓ 一年生イネ科雑草に対する高い効果
畑地では、主に3葉期から5葉期（だいたいは10葉期）までの一年生イネ科雑草に使用することで、安定した除草効果を示します。雑草の種類、生育ステージや大きさなどに応じて適切な薬量を用いることにより、安定した殺草効果が得られます。
- ✓ 多年生イネ科雑草にも高い効果
有効成分は、雑草の茎葉部および根部から容易に吸収され、体内を移行して成長点および節部の分裂組織に作用し、周辺細胞を壊死させることによって植物全体を枯死させるため、畑に侵入するシバムギ、キシュウスズメノヒエや、チガヤ、ヨシ、ススキ等の防除の難しい多年生イネ科雑草も枯殺することができます。
- ✓ いろいろな場面で使用できます
広葉作物の他、水田畦畔、かんきつ、緑地管理用地などに幅広く使用することができます。
- ✓ 耐雨性にすぐれています
有効成分の吸収・移行が早いいため、散布後の降雨による影響を受けにくい薬剤です。
- ✓ 効果はゆっくり発現します
本剤の有効成分は速やかに吸収されますが、効果の発現は緩慢なため、完全に枯れるまで通常15～20日程度かかります。

適用作物と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		使用方法	本剤およびフルアジホップPを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量		
だいず	—	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く） シバムギ レッドトップ	雑草生育期（イネ科雑草8～10葉期） 但し、収穫60日前まで	100㎖	100ℓ	雑草茎葉散布又は全面散布	1回
			雑草生育期（イネ科雑草5～8葉期） 但し、収穫60日前まで		通常散布 50～100ℓ 少量散布 25～50ℓ		
			雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫60日前まで	75～100㎖			
雑草生育期（イネ科雑草5～8葉期） 但し、収穫30日前まで			100㎖	75～100㎖			
雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫30日前まで			50～100㎖				
雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫60日前まで							
雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫45日前まで			70～100ℓ	雑草茎葉散布又は全面散布			
雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫30日前まで							
雑草生育期（イネ科雑草3～8葉期） 但し、収穫90日前まで				75～100㎖	雑草茎葉散布		
雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫30日前まで			50～100㎖				
雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫後～定植まで							
雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫21日前まで			75～100㎖	雑草茎葉散布			
雑草生育期（イ							

かんしょ			ネ科雑草3～5葉期) 但し、収穫60日前まで	50～75 ml			
ばれいしょ			雑草生育期（イネ科雑草3～8葉期） 但し、収穫前日まで	75～100 ml	75～100 ℓ		
キャベツ ブロッコリー			雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫30日前まで		100 ℓ	雑草茎葉散布又は全面散布	
アスパラガス			雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫前日まで		70～100 ℓ		2回以内
やまのいも			雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫30日前まで	50～100 ml			
にんにく			雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫21日前まで		100 ℓ		
せんきゅう			雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） 但し、収穫90日前まで				1回
かんきつ		一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	春季～夏季雑草生育期（草丈20cm以下） 但し、収穫120日前まで	200～300 ml		雑草茎葉散布	
		チガヤ、ススキ等の多年生イネ科雑草	春季～夏季雑草生育期（草丈30cm以下） 但し、収穫120日前まで	300～500 ml			
いぐさ		水田一年生イネ科雑草	落水後（雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期））	100～200 ml		雑草茎葉散布又は全面散布（落水）	
桑			雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）	75～100 ml	100～150 ℓ		
つつじ類 つばき類 とちのき さくら まつ しゃりんばい		一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く） シバムギ レッドトップ	雑草生育期（草丈20cm以下）	100～200 ml		雑草茎葉散布	2回以内
日本芝		ベントグラス	雑草生育期（芝休眠期）	150 ml		散布	
水田作物（水田畦畔）	水田畦畔	一年生イネ科雑草 キシュウスズメノヒエ	雑草生育期（草丈30cm以下） 但し、収穫120日前まで	200～400 ml		雑草茎葉散布	1回
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	雑草生育期（草丈20cm以下）	150～300 ml	100 ℓ		
		多年生イネ科雑草	雑草生育期（草丈30cm以下）	400～600 ml	150 ℓ	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3回以内

※本内容は2020年9月30日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 散布液の調製にあたっては本剤の所要量を所定量の水にうすめ、よくかきまぜてから散布すること。
- 少量散布（25～50ℓ）の場合は、専用ノズルを使用すること。
- 本剤使用の際は展着剤を加用すると効果的である。
- 本剤をだいこんに使用する場合、間引き菜又はつまみ菜として食用には供さないこと。
- 雑草茎葉にかかるよう、まきむらのないように均一に散布すること。
- 本剤は広葉及びカヤツリグサ科雑草には効果が期待できないので、イネ科雑草優占圃場で使用すること。尚、広葉雑草が混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との組み合わせで使用すること。
- イネ科雑草の生育盛期が本剤の散布適期であり、冬期の低温時や出穂期以降など雑草の生育が停止している時は効果が劣るので、適期を失しないよう散布すること。
- 本剤は遅効性であり、イネ科雑草が完全枯死に至るには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直しなどしないよう注意すること。
- イネ科作物には薬害を生じるので、周囲にイネ科作物がある場合は薬液が飛散しないよう注意して散布すること。
- 作物の生育期に使用する場合、散布前後の気象が低温、寡照であると、処理葉に褐斑やクロロシスを生じるおそれがあるのでこの場合には所定範囲の少なめの薬量とし、展着剤の加用をさけること。
- だいでイネ科雑草の8～10葉期に使用する場合は、雑草の草丈が30cm以下で使用する。
- 日本芝に使用する場合は、次の事項に注意すること。
 - ・ 芝の生育期に散布すると薬害を生じるので、使用時期を誤らないように注意すること。
 - ・ 寒地型西洋芝には微量で薬害を生じるので、飛散、流出などにより薬害が生じることがないように十分注意して散布すること。
 - ・ 本剤は効果の発現が遅く、春先になってから現れる場合もあるため、誤ってまき直しなどしないように注意すること。
- 激しい降雨の予想される場合は、使用をさけること。
- 散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布すること。
- 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- 本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - ・ 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
 - ・ 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、容器、空袋等は、環境に影響を与えないよう適切に処理すること。

安全使用上の注意事項



- 誤飲などのないよう注意すること。
- 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。また散布液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 原液は皮膚に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には不浸透性手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。また散布液も皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼をすること。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。
- 危険物第4類第2石油類に属するので火気には十分注意すること。

魚毒性等

- ・水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- ・養魚田周辺での使用には、特に注意すること。

保管

火気をさけ、直射日光があたらない低温な場所に密栓して保管すること。